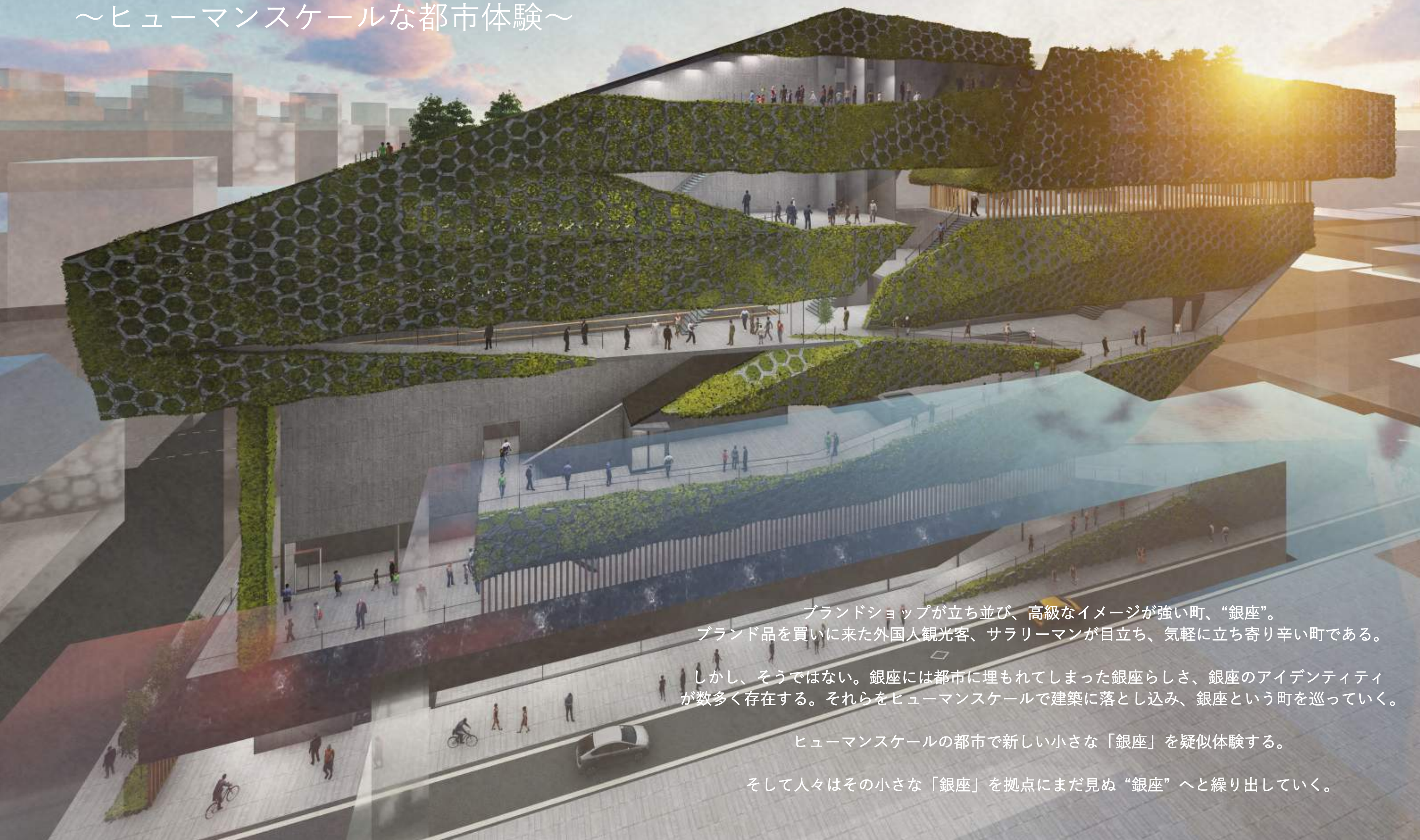


集散的銀座空間

～ヒューマンスケールな都市体験～



ブランドショップが立ち並び、高級なイメージが強い町、“銀座”。
ブランド品を買いに来た外国人観光客、サラリーマンが目立ち、気軽に立ち寄り辛い町である。

しかし、そうではない。銀座には都市に埋もれてしまった銀座らしさ、銀座のアイデンティティが数多く存在する。それらをヒューマンスケールで建築に落とし込み、銀座という町を巡っていく。

ヒューマンスケールの都市で新しい小さな「銀座」を疑似体験する。

そして人々はその小さな「銀座」を拠点にまだ見ぬ「銀座」へと繰り出していく。



『道』× 工房

若手アーティストたちが集まる工房を外の道から繋ぐ。そこには知らない職人のアートに出会える。



『道』× 居酒屋

この趣向空間では路地にある商店のような雰囲気に溢れる。店の活気が道に伝えている。



『道』× アンテナショップ

道を進むと様々な地域の店が並ぶ。また知らぬ間に会える。



『道』× カフェ

屋外テラスのあるブックカフェでは、気になる本を読むことができる。



『道』× ギャラリー

このギャラリーでは企画展が開催される。様々な作品を鑑賞できるようにしていく。見る人は時間も忘れて作品に耽る。



『道』× 本屋

道を進みながら、気になる本を見つけ、ヒューマンスケールの本を手に取り、読書に夢中になる。

01. 銀座という町

i) 『道』が作ってきた銀座の歴史

かつて銀座は銀ブラ、ウィンドウショッピング、路地裏の居酒屋に代表されるように『道』で作られてきた歴史をもつ。人の歩く行為で都市が作られてきた代表的な都市である。



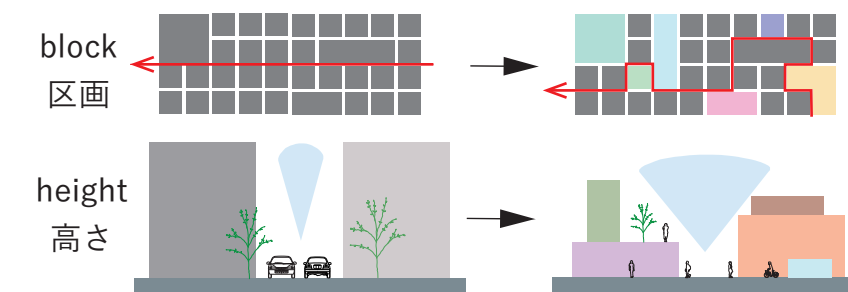
ii) 認知されづらい銀座の個性

現在の銀座はブランドショップ、高級品店のイメージが強くどこか馴染み辛い町である。また、近年、外国人観光客がブランド品を買いに来ているのは有名な話である。しかし、路地裏の居酒屋、アンテナショップ、若手アーティストが集うギャラリー、蚤の市などあまり知られていない多くの魅力を持っている。



iii) 町の均質化 <ヒューマンスケールの喪失>

銀座はその歴史上、両側町として成長してきた。昔は路上に露店も並び、道を介して町の魅力を体感できた。しかし、近年、ヒューマンスケールを無視した建物が並び、都市に埋もれた町のアイデンティティが忘れ去られ、どこか銀座という町の均質性を感じてしまう。言うなれば、都市の迷路である。自分がどこにいるかもわからないことも多々ある。そこで銀座の特徴を分解し再構築していく、それをヒューマンスケールを元に建築に落とし込む。



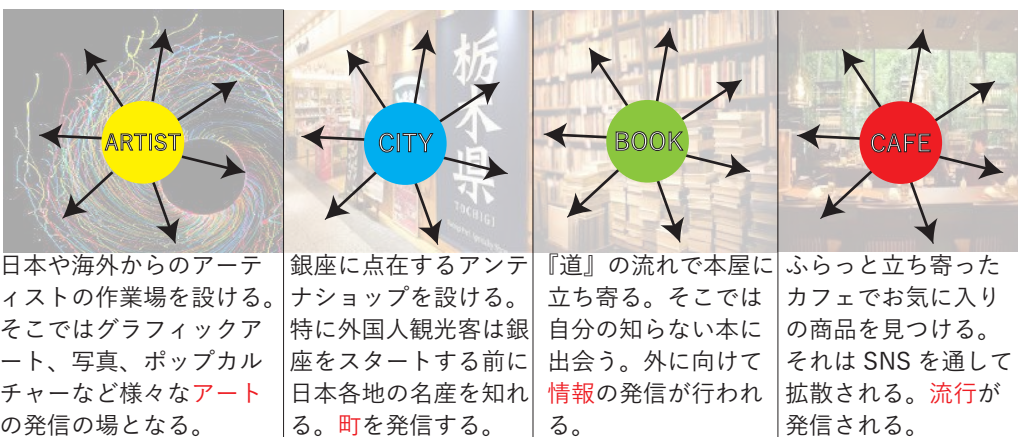
02. 都市に点在する町のアイデンティティ

敷地周辺に点在する銀座のアイデンティティをリサーチし、それを食、文化、ショッピング、観光の大きな4つに分類化する。



『銀座におけるハブとしての役割』

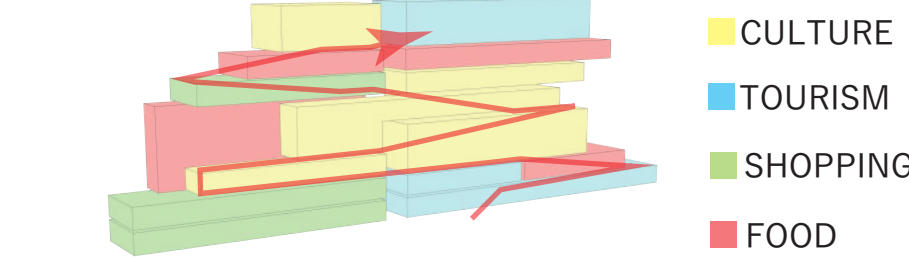
この建築を中心に銀座の町のアイデンティティを外へと発信していく。分類された4つの項目から例の一部をあげていく。



03. ヒューマンスケールで都市を巡る

i) ゾーニング計画

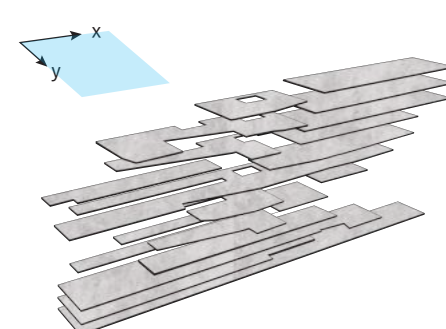
分類されたアイデンティティを元にゾーニングを行う。それらを敷いてバラバラにゾーニングする。それらを繋ぐ『道』は町を歩いていると偶然おしゃべりなバーを見つけるように人の行動に偶然性を産み、よりリアルにヒューマンスケールレベルで都市を建築に落とし込む。



ii) 銀座が持つヒューマンスケールな要素を抽出し再構成する

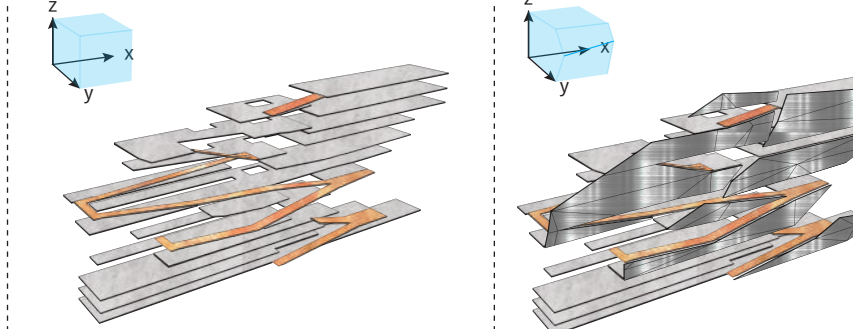
緑は人にメカニカルを感じさせない。壁面を緑化し、『道』の途中に緑を見せる。車も入れない細い路地は人の存在をより強く感じることができる。人が人を通れるかどうかくらいの空間を作る。

Design Process



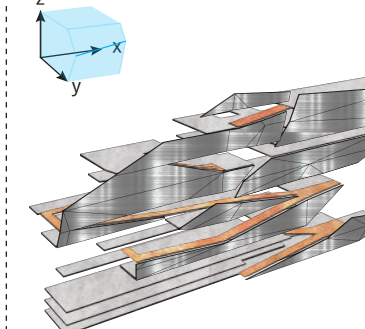
まず人の歩む場としてスラブを配置していく。ここでスラブをxy平面と定義する。このままスラブを積み上げただけのメガスケールの建物になってしまう。

Process



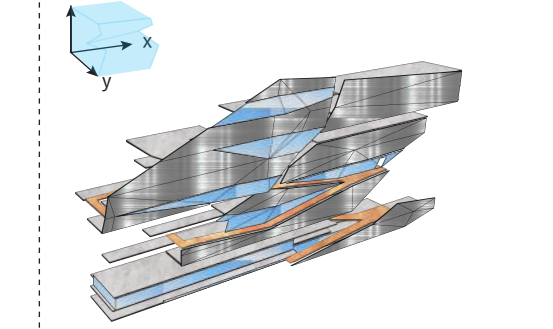
ここにスロープというx軸の要素を足していく。xy平面上での都市に置ける道の動きにx軸が加わることで、小さな、人間スケールに近い空間が生まれる。

以上の考察を元に、3次元空間的に設計プロセスを考える



できた空間に外皮による重みを持たせる。垂直壁ではなく多面的な壁によって空間に凹凸が生まれ、よりヒューマンスケールに近づいていく。

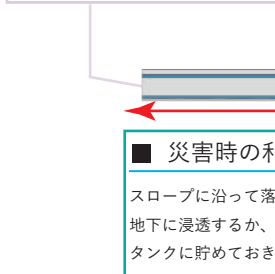
05. ENVIRONMENT and STRUCTURE



外壁にガラスを挿入していく。ガラスは視線を通すため、空間に穴を開ける手段と捉える。3次元的にはメカニカルな空間である。外皮(+)とガラス(-)により、凹凸が生まれる。

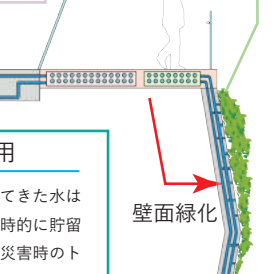
■ バイブ冷却システム

雨水を冷却水として利用し、コンクリートのひび割れを防ぐ。首都直下型地震に備える。



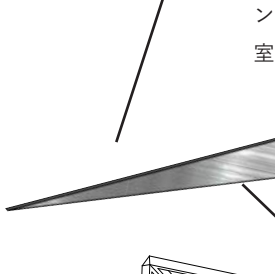
■ 植栽への散水

スロープによる勾配で流れてきた水は壁に壁に絡みつきやすくなり、植栽への広範囲の散水も行うことができる。ファサードから入る光はパンチングメタルを通して緩やかに室内にこもる。



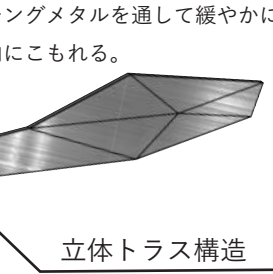
ハニカム構造

建物はさらに強度を増す。また、植栽が壁に絡みつきやすくなり、植栽への広範囲の散水も行うことができる。ファサードから入る光はパンチングメタルを通して緩やかに室内にこもる。



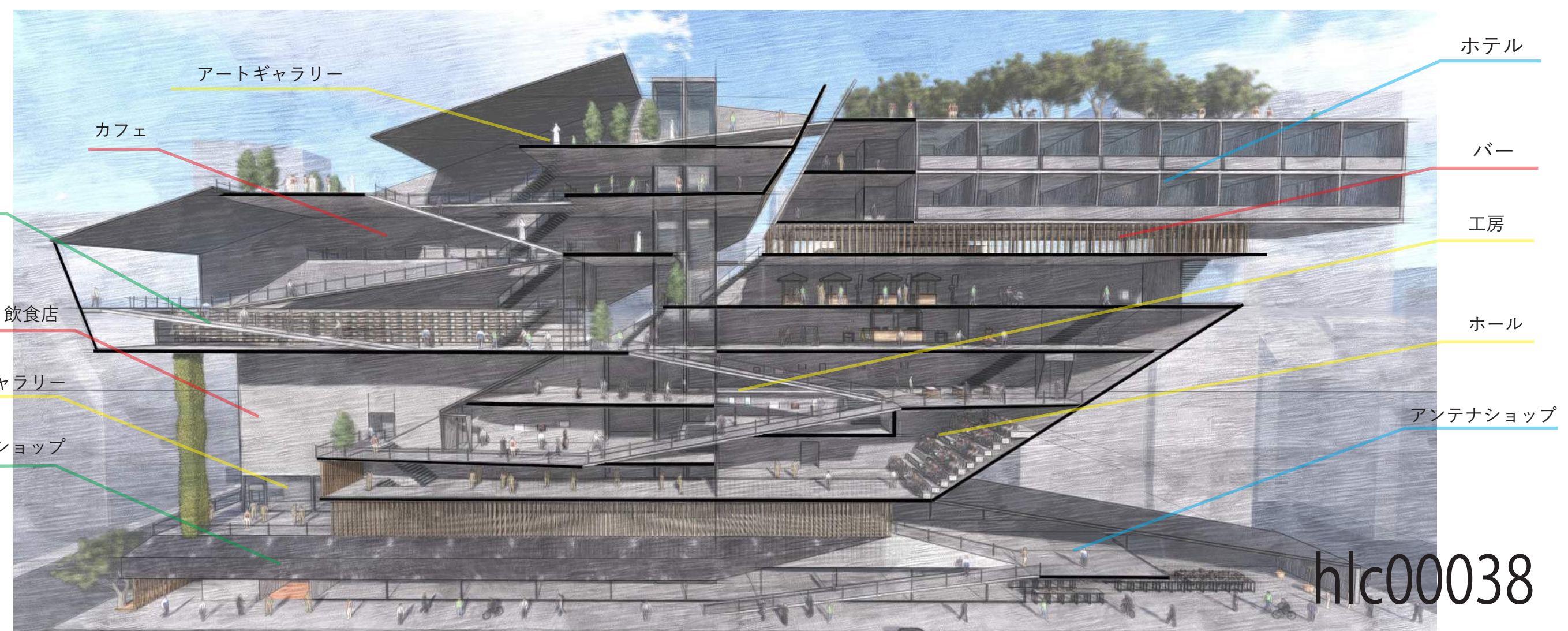
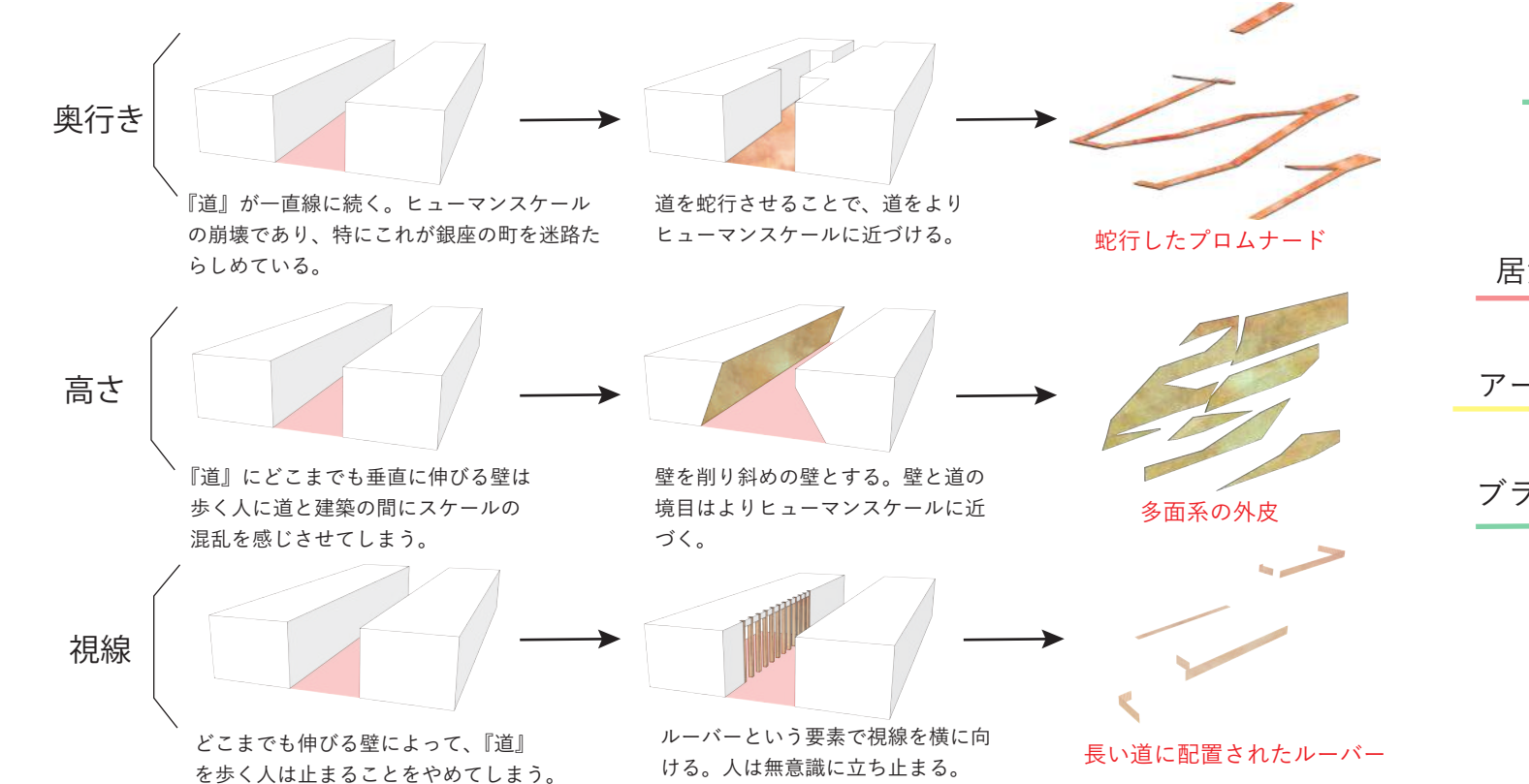
立体トラス構造

立体トラス構造の外壁により、建物の強度を上げる。立体トラスを連続させることで外皮を構成していく。



04. アイデンティティ同士を繋ぐ新たな都市の要素とその再解釈

銀座の道を構成している都市の要素を分析し、問題点を見つけ、よりヒューマンスケールな要素として再解釈する。それらを銀座のアイデンティティを繋ぐ手段として新たに構築していく。



hlc00038